

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2022年8月5日 16:00～17:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 兼 IR グループリーダー 高玉 義紀
説明資料	2022年度第1四半期決算の概要 及び 2022年度業績予想の概要

Q&A

■ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの通期の見通しの考え方、計画を見直さなかった背景も含め説明して欲しい。

A1. 22年上期の状況を鑑みて販売は堅調に推移しています。下期についても販売堅調に推移すると見込まれますが、ビジョンケアでの4Qにおける中国春節影響や、農業における2-3Q海外需要期、4Q国内需要期の影響を鑑みると妥当な計画だと考えております。ただ、現時点で不透明な事業環境が継続しており、見通しづらいため通期計画は据え置いています。

Q2. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの22年2Q（7-9月）と21年2Q（7-9月）との比較において増益を見込んでいる背景について説明して欲しい。

A2. 主に農業の海外での販売が堅調に推移し増益を見込んでおります。

■モビリティソリューションセグメント

Q3. 22年度の22年1Q（4-6月）から22年2Q（7-9月）にかけての自動車生産台数の回復状況について説明して欲しい。

A3. 中国ロックダウンからの回復や半導体市場の需給緩和の影響もあり回復は見込んでおりますが、状況は注視してまいります。

Q4. タフマーの太陽電池封止材用途での販売数量増加の背景について説明して欲しい。

A4. 環境問題を背景に、中国を中心とした太陽電池市場の拡大に加え、長期耐久性に優れたポリオレフィン系の採用が急速に拡大しており、当社のタフマーの販売も伸長しています。

■ICTソリューションセグメント

Q5. ICTソリューションの21年4Q（1-3月）から22年1Q（4-6月）及び22年2Q（7-9月）にかけての主要な製品の動向を説明して欲しい。

A5. イクロスの販売は、21年4Q中国の春節影響解消により22年1Qは堅調に推移しました。2Qにかけては顧客の在庫調整局面となり販売は減少を見込んでいます。アペルの販売は、中国ロックダウンの影響により21年4Qから22年1Qにかけて販売は減少、2Qにかけても回復はするものの大きな販売増加は見込んでいません。EUVペリクルの販売は、堅調に販売が増加しています。

Q6. EUVペリクルの販売状況について説明して欲しい。

A6. 1Qも着実に販売は増加してきており、22年度通じても計画通り見込んでいます。

■ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

Q7. ベーシック&グリーン・マテリアルズの21年4Q（1-3月）から22年1Q（4-6月）にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A7. BPAの市況は下落し減益方向となりました。一方、ナフサ価格上昇により22年度1Qに在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響による交易条件の改善、ウレタンの再編影響による持分法投資損益の改善、及び租税公課は4Qで一括計上となっているため1Qでは発生しませんので費用が減少し、増益となりました。

Q8. 22年度の上期の在庫評価の影響について教えて欲しい。また、上期の国産ナフサ価格前提は86,000円/KLだが、下落した場合の影響についても説明して欲しい。

A8. 在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響は1Qで100億円程度、2Qで60億円程度を見込んでいます。ナフサ価格が下落した場合は、2Qで見込んでいる在庫影響は縮小すると見込んでいます。

Q9. ベーシック&グリーン・マテリアルズの22年1Q(4-6月)及び22年2Q(7-9月)の稼働率について説明して欲しい。

A9. クラッカーの稼働率は1Qから2Qにかけては若干の減産を計画しておりますが、上期を通して9割程度の高い稼働率を見込んでいます。ポリオレフィンについても高い稼働率を見込んでいます。フェノールやBPAについては、1Qは高稼働、2Qにかけては需要見合いで稼働を少し下げています。

Q10. BPAの市況の状況について説明して欲しい。

A10. 22年1Qは中国ロックダウンの影響により需要減少及び新設プラント稼働により需給環境が軟化し下落しました。2Qでは需要停滞継続見込のため、更に下落すると見込んでおります。

Q11. ベーシック&グリーン・マテリアルズの22年1Q(4-6月)から22年2Q(7-9月)にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A11. 在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の減少、BPA・フェノール等の市況下落の影響、大阪での大定修による修繕費等の増加により減益となっています。

■ 全社

Q12. 為替前提を見直したにもかかわらず成長領域の予想を見直していない背景について説明して欲しい。

A12. 1Qは期初計画に比べると販売数量は減少しましたが円安影響により前年同期比でも同程度の利益水準を確保できました。2Q以降は販売回復を見込んでおりますが、先行き不透明な状況が続いておりますので、現時点で利益計画を変更していません。

Q13. 成長領域における22年1Q(4-6月)から22年2Q(7-9月)にかけて、交易条件の方向感及び固定費の増加をどの程度見込んでいるのか説明して欲しい。

A13. ライフ&ヘルスケアについては交易条件に大きく変化はありません。モビリティについてはフォーミュラ期ずれの影響で改善見込んでいます。ICTについては原燃料の影響もあり若干の悪化を見込んでおります。固定費については成長領域あわせて60~70億円程度を見込んでいます。

以上